

2022年度淑徳大学卒業時調査報告

淑徳大学 高等教育研究開発センター

2022年度卒業時調査の目的

2022年度末の淑徳大学卒業生を対象に行い、「**本学の卒業認定・学位授与の方針**」や「**教育課程編成・実施の方針**」に基づいた教育や学修成果について評価するとともに、**今後の教育改善に資する事を目的として、3月にマークシートにて実施した。**

2022年度卒業時調査の回収率

学部名	学科名	対象者	回答枚数	回収率
総合福祉学部	社会福祉学科	173	161	93.06%
	教育福祉学科	137	124	90.51%
	実践心理学科	80	73	91.25%
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科	83	67	80.72%
看護栄養学部	看護学科	99	90	90.91%
	栄養学科	77	73	94.81%
経営学部	経営学科	85	84	98.82%
	観光経営学科	82	82	100.00%
教育学部	こども教育学科	97	97	100.00%
人文学部	表現学科	76	71	93.42%
	歴史学科	56	51	91.07%
大学全体		1045	973	93.11%

※学部並び順は同一キャンパスを優先している。

※対象者数は3月卒業生数である。

※回答は学科欄にマークされていないものであっても学籍番号及び氏名で確認できた場合は、該当学科に入れている。



【設問】大学の満足度について

	大学の満足度について	満足	ある程度満足	やや不満	全くそう 思わない
1	大学の満足度について	4	3	2	1
2	基礎教育について	4	3	2	1
3	専門教育について	4	3	2	1
4	学習に関する支援について	4	3	2	1
5	キャリア・就職支援プログラムについて	4	3	2	1
6	授業外のプログラムについて	4	3	2	1
7	部活やサークルなどの課外活動について	4	3	2	1
8	教員の指導や対応について	4	3	2	1

入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか

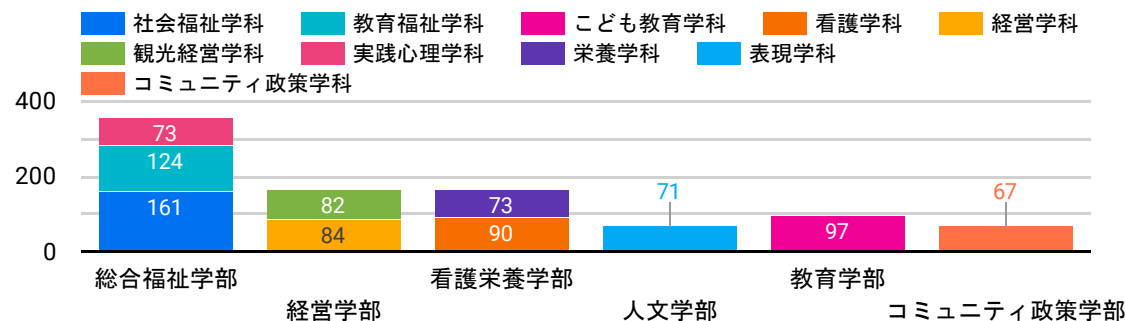
	能力や知識の変化について	あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い
1	人類の文化、社会と自然に関する知識（いわゆる一般的な教養）が増えた	4	3	2	1
2	専門分野に関する知識が身についた	4	3	2	1
3	データや情報を収集・分析し、表現する力が増えた	4	3	2	1
4	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力が増えた	4	3	2	1
5	社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力が増えた	4	3	2	1
6	卒業後も自ら学び続けることのできる習慣が身についた	4	3	2	1
7	これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力が身についた	4	3	2	1

【調査概要】

2022年度末の淑徳大学卒業生を対象に行い、「本学の卒業認定・学位授与の方針」や「教育課程編成・実施の方針」に基づいた教育や学修成果について評価するとともに、今後の教育改善に資する事を目的として、3月にマークシートにて実施。

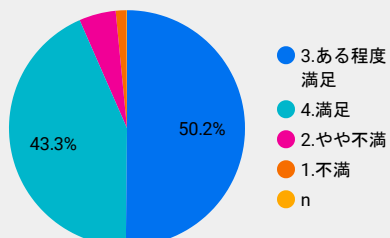
【回答者数】

回答数
973

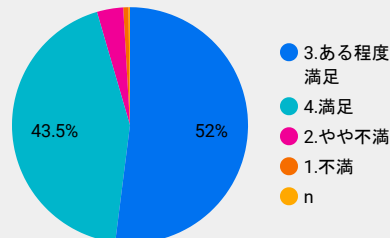


【大学の満足度について】

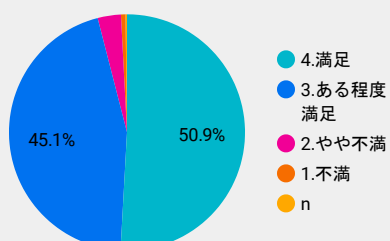
大学の満足度について



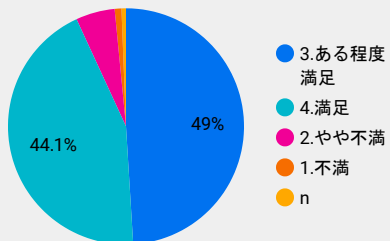
基礎教育について



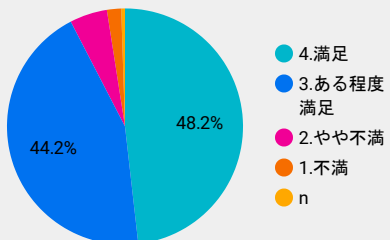
専門教育について



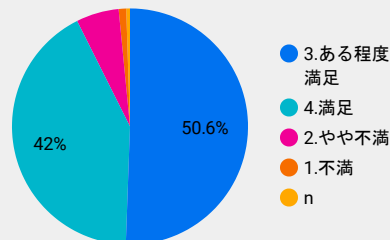
学習に関する支援について



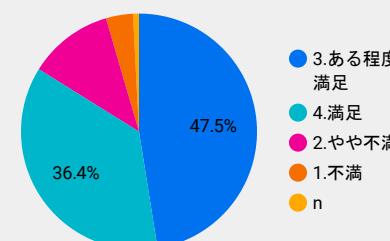
キャリア・就職支援プログラムについて



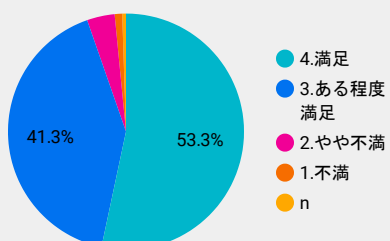
授業外の教育プログラムや正課外講座について



部活やサークルなどの課外活動について

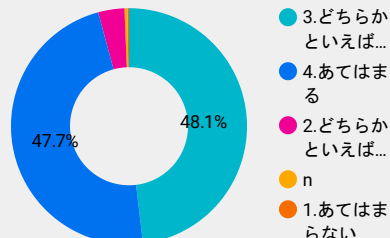


教員の指導や対応について

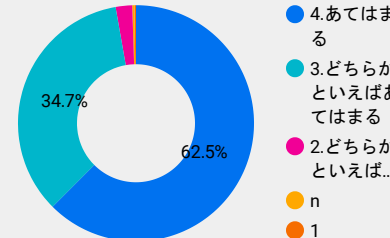


【能力や知識の変化について】

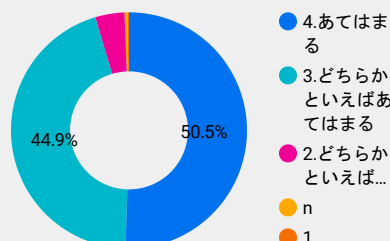
人類の文化、社会と自然の知識



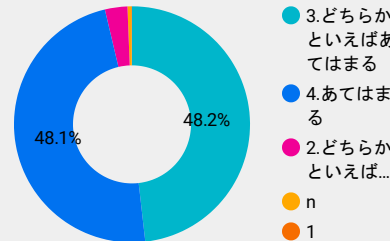
専門分野に関する知識



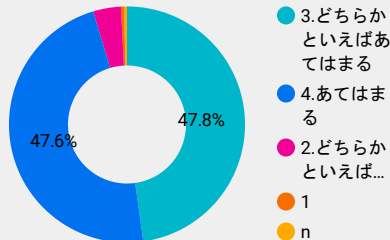
データ収集分析・表現する力



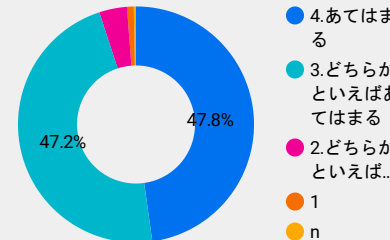
問題発見・解決、情報収集・分析・整理



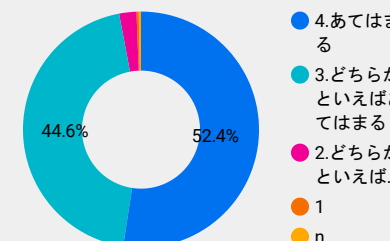
社会の一員としての意識、社会への関与する力



卒業後も自ら学び続けることの出来る習慣



知識や経験を結び付け統合する力



2022年度卒業時調査結果の分析

○大学の満足度について

- ・大学の満足度については、どの学科・学部も9割を超える満足度となっている。特に満足であるとした回答率が高いのは専門教育や教員の指導・対応である。
- ・部活やサークルなどの課外活動の不満群が多いのはコロナ禍により正課外活動が出来なかったことも理由として考えられる。

○入学時と比較した能力や知識について

- ・2022年度の調査では、専門分野に関する知識が学生自身として、伸びていることがわかる。
- ・問題発見や解決力や社会の一員として関与する力については、あてはまるの割合がどちらかといえはあてはまるより少ないが、令和5年度以降開講するS－BASICにより、これらについて修得する科目が必修となる。